

2-5 肢体不自由養護学校の教育課程類型と人数・自立活動時数の実態

石川政孝 菅井裕行 大崎博史 當島茂登

2-5-1 肢体不自由養護学校における教育課程の類型の実態に関する結果と考察

表2-5-4は、肢体不自由養護学校における教育課程の類型の実態を示したものである。有効回答数は小学部114校、中学部139校、高等部116校であった。表中には、各教育課程の類型を教育課程上に設けている学校数および有効回答数に対する構成比を示してある。

なお、「その他」は、調査用紙で項目として挙げた6種類の教育課程の類型の他に教育課程の類型があり自由記述で回答のあったものである。これらは、例えば、「自立活動を主とする教育課程」においても、自立活動の指導時数が異なり、複数の類型がある場合に、「その他」の欄に記入がされている。今回、その中身については分析していない。

「自立活動を主とした教育課程」は、小学部144校中131校(91%)、中学部139校中126校(90.6%)、高等部116校中99校(85.3%)に設置されており、肢体不自由養護学校の重度・重複化を反映して障害の重度、あるいは重複した児童生徒に対して、個に応じた指導がなされている実情が明確に表れていると考えられる。

次いで「知的障害養護学校の教育課程」が、小学部では144校中116校(80.6%)、中学部が139校中112校(80.6%)、高等部では116校中100校(86.2%)に設けられており、障害が重複する児童生徒に対して知的障害への対応を主としている実情も伺える。

肢体不自由養護学校においては、障害が重度・重複化する中で、「知的障害養護学校の教育課程」と「自立活動を主とした教育課程」が併存し、児童生徒の肢体不自由の程度等によって、それぞれの教育課程が選択されていると考えられる。

「学年相応に準ずる教育課程」については、小学部では88校(61.1%)、中学部で92校(66.2%)、高等部で73校(62.9%)に設けられていた。また、「下学年適用による教育課程」も小学部で70校(48.6%)、中学部で74校(53.2%)、高等部では71校(61.2%)に設けられていた。地域的な分布は本調査では把握し

ていないが、肢体不自由養護学校において近年障害の重度・重複化への対応が注目されている中で、教科学習のニーズも少なからずあり、いわゆる肢体不自由単一障害への対応の充実、児童生徒個々の肢体不自由の状態等に配慮した効果的な教科学習を進めることも重要である。

「訪問教育による教育課程」は、小学部で83校(57.6%)、中学部62校(44.6%)、高等部57校(49.1%)であった。

肢体不自由養護学校における訪問教育の教育課程の類型別人数をみると、「学年相応に準ずる教育課程」が103人(13.8%)、「下学年適用による教育課程」24人(3.2%)、「知的障害養護学校の教育課程」40人(5.4%)、「自立活動を主とする教育課程」577人(77.6%)であった。(表2-5-6参照)

訪問教育については、地域の事情等から40%以上の知的障害養護学校が訪問教育を実施している実態がある。訪問教育対象児数についてみると、知的障害養護学校が肢体不自由養護学校を上回っている。

重度・重複障害児の指導について専門性のある肢体不自由養護学校が地域の中で積極的に知的障害養護学校との連携を図り、重度・重複障害児に対する指導法や教材教具等の提供を進めるなど、指導方法・内容等についてノウハウを提供していく必要がある。

2-5-2 肢体不自由養護学校における教育課程の類型ごとの児童生徒数の実態に関する結果と考察

肢体不自由養護学校における教育課程の類型ごとの児童生徒数を、表2-5-5に示した。

全体では、「自立活動を主とする教育課程」が41.9%と最も多く、次いで「知的障害養護学校の教育課程」が30.8%を占めている。学部ごとにみると、前述された知的障害養護学校での傾向と同様に、「自立活動を主とする教育課程」が学部進行に伴い減少し、逆に「知的障害養護学校の教育課程」が増える傾向がみられた。また、「学年相応に準ずる教育課程」及び「下学年適用による教育課程」も学部進行の伴い

微増の傾向がみられた。このような傾向は、学部進行に伴い、地域の小学校、中学校の通常学級や特殊学級から養護学校に転入学する比較的軽度の障害のある児童生徒によって、相対的に「自立活動を主とする教育課程」の児童生徒の比率が減少していると考えられる。

2-5-3 肢体不自由養護学校における訪問教育の教育課程ごとの児童生徒数に関する結果と考察

表2-5-6に、肢体不自由養護学校における訪問教育の教育課程ごとの児童生徒数を示した。

全体をみると、「自立活動を主とする教育課程」が77.6%と最も多く、次いで「学年相応に準ずる教育課程」が13.8%となった。肢体不自由養護学校が訪問教育の対象とする児童生徒が、教科指導から自立活動を主とした指導まで多様なニーズを有している実態が伺える。「自立活動を主とする教育課程」は、学部進行と共に小学部254人、中学部153人、高等部170人と実数上で増加傾向がみられた。これは、訪問

教育の高等部実施により訪問教育対象の高等部生徒数が平成12年度から増加傾向にある影響等が考えられる。

2-5-4 肢体不自由養護学校における教育課程の類型ごとの自立活動の週平均指導時数に関する結果と考察

教育課程の類型ごとの自立活動の週平均指導時数について、表2-5-7に示した。

全体からみると、「自立活動を主とした教育課程」では、自立活動の週平均指導時数は18.5～19.4時間で高等部で多く時間を設定していた。また、「知的障害学校の教育課程」では、学部進行に伴って減少傾向がみられた。

高等部では重度肢体不自由のある生徒に対して、関節の拘縮や身体各部位の変形等「身体の動き」への対応が時間上多くなり、また肢体不自由の比較的軽度の生徒には作業学習等の対応が相対的に多くなることが考えられる。

表2-5-1 肢体不自由養護学校における教育課程の類型（幼稚部）

	課を自 立設 け活 な動 いの 教時 育間	程を自 立設 け活 た動 教の 育時 課間	そ の 他
学校数	4	8	2
構成比 (%)	28.6	57.1	14.3

有効回答数14

表2-5-3 教育課程の類型ごとの自立活動週平均指導時数（幼稚部）

	課を自 立設 け活 な動 いの 教時 育間	程を自 立設 け活 た動 教の 育時 課間	そ の 他
平均指導時数	16.7	4.1	22
有効回答数	4	8	1

表2-5-2 教育課程の類型ごとの人数（幼稚部）

	課を自 立設 け活 な動 いの 教時 育間	程を自 立設 け活 た動 教の 育時 課間	そ の 他	合 計
人数	35	73	4	112
構成比 (%)	39.3	55.6	5.0	100

表2-5-4 肢体不自由養護学校における教育課程の類型（小・中・高等部）

		学年相応に準ずる教育課程	下学年適用による教育課程	知的障害養護学校の教育課程	自立活動を主とする教育課程	訪問教育による教育課程	通信による教育の特例による教育課程	その他	有効回答数
小学部	学校数	88	70	116	131	83	-	8	144
	構成比 (%)	61.1	48.6	80.6	91	57.6	-	6.3	
中学部	学校数	92	74	112	126	62	-	10	139
	構成比 (%)	66.2	53.2	80.6	90.6	44.6	-	7.2	
高等部	学校数	73	71	100	99	57	0	9	116
	構成比 (%)	62.9	61.2	86.2	85.3	49.1	0	7.8	

表2-5-5 肢体不自由養護学校における教育課程の類型ごとの児童生徒数（小・中・高等部）

		学年相応に準ずる教育課程	下学年適用による教育課程	知的障害養護学校の教育課程	自立活動を主とする教育課程	訪問教育による教育課程	通信による教育	その他	合計
小学部	人数	502	299	1390	2458	338	0	25	5012
	構成比 (%)	10.0	6.0	27.7	49.0	6.7	0.0	0.5	100
中学部	人数	359	274	917	1240	213	0	34	3037
	構成比 (%)	11.8	9.0	30.2	40.8	7.0	0.0	1.1	100
高等部	人数	441	436	1258	1148	193	0	41	3517
	構成比 (%)	12.5	12.4	35.8	32.6	5.5	0.0	1.2	100
合計	人数	1302	1009	3565	4846	744	0	100	11566
	構成比 (%)	11.3	8.7	30.8	41.9	6.4	0.0	0.9	100

表2-5-6 肢体不自由養護学校における訪問教育の教育課程ごとの児童生徒数

		学年相応に準ずる教育課程	下学年適用による教育課程	知的障害養護学校の教育課程	自立活動を主とする教育課程	合計
小学部	人数	61	7	16	254	338
	構成比 (%)	18.0	2.1	4.7	75.1	100.0
中学部	人数	35	13	12	153	213
	構成比 (%)	16.4	6.1	5.6	71.8	100.0
高等部	人数	7	4	12	170	193
	構成比 (%)	3.6	2.1	6.2	88.1	100.0
合計	人数	103	24	40	577	744
	構成比 (%)	13.8	3.2	5.4	77.6	100.0

表2-5-7 肢体不自由養護学校における教育課程の類型ごとの自立活動の週平均指導時数（小・中・高等部）

	学年相応に準ずる教育課程	下学年適用による教育課程	知的障害養護学校の教育課程	自立活動を主とする教育課程	訪問教育に準ずる学年相応に教育課程	訪問教育による下学年適用による教育課程	障害養護学校/知的的	訪問教育/自立
小学部	3.2	4.0	5.5	18.5	4.4	2.7	4.1	6.3
中学部	3.3	4.1	5.2	18.6	4.4	2.8	2.7	7.1
高等部	3.0	4.1	4.7	19.4	2.3	2.5	3.9	6.9